

高知工科大学周辺における自生植物の薄層クロマトグラフィーおよび抗酸化試験による有用性評価に関する研究

1160254 三保沙弥佳

An evaluation of usefulness of the native plants in the vicinity of Kochi University of Technology by thin-layer chromatography and anti-oxidation test.
Sayaka MIHO

この評価研究の目的は高知工科大学周辺に自生している植物の中から特性の解析が進んでいない植物を選び、それらの有用性の調査を行うことである。本研究ではその最初の段階として、選定した約 60 種の植物を使用し薄層クロマトグラフィーとジフェニルピクリルヒドラジル (DPPH) 抗酸化試験を行い、これらの結果から有用と思われる植物を絞り込んだ。使用した植物試料は自生植物を採取し、いくつかは葉や根などの部位ごとに分けて乾燥させ、メタノール・エタノールを使用して成分を抽出・乾燥させて作成した。薄層クロマトグラフィーは数種類の呈色試薬による実験も併せて行うことで含有成分推定のための資料とした。また、不対電子を持つ DPPH が抗酸化物質と反応すると紫色から淡黄色へ変化する性質を利用して、吸光度を測定することで抗酸化力の強さの評価を行った。以上の 2 種類の評価実験によって得られた結果を報告する。